



## “一丁嚙”が行く！

第76回：外形標準課税

法人税の減税が検討されています。そして、その財源として資本金1億円以下の企業に適用されていない法人事業税の外形標準課税を中小企業にも広げる動きが出てきています。

そもそも法人税とはなにか。法人の活動から生じる所得に対して、日本で課税される税金には、法人税（国税）、法人住民税（地方税）、事業税（地方税）、地方法人特別税（国税。ただし申告・納付は事業税とともに地方自治体に対して行う）があります。そして、法人の所得（課税所得）に応じてそれぞれの税額を算定して納付しています。また、事業税については、資本金1億円超の法人を対象として外形標準課税がなされています。外形標準課税とは、企業の利益に関係なく、資本金や従業員給与などの額に応じて課税されるというもので、赤字であっても支払わなければなりません。

このたび、法人税を減税するための財源として、資本金1億円以下の中小企業にもこの外形標準課税を課するという動きがあるのです。6～7割が赤字といわれる中小企業から広く税金を取ることで減税分の財源を確保しようというわけです。

そもそも、法人税を減税して喜ぶのは誰でしょうか。もちろん、収益をしっかりと上げている企業は納税額が減ることを歓迎します。そして、多くの大企業はしっかりと利益を上げてたくさんの税金を払っているわけですから、大企業が大歓迎なのは納得できます。（実際には租税特別措置によって利益が出ていても納税していない大企業もありますが・・・）

しかしそのために赤字で苦しんでいる零細な中小企業から徴税するというのは如何でしょうか。

外形標準課税とは、企業の利益に関係なく、資本金や従業員数などに応じて一定額の税金を課するというものだということは前述したとおりですが、地域の雇用を守っている中小企業が従業員数（従業員給与の総額）に応じて課税されるなら増員は控えて人員削減方向になる。あるいは賃上げしなくなる。それでは地域経済が良くならないのではないのでしょうか。

中小企業いじめに他ならない外形標準課税には、商工会議所、商工会連合会をはじめ、中小企業団体がこぞって反対を表明しています。そして先日、中小企業家同友会の会合で衆議院議員会館に向いて聞いた中小企業庁の北川長官の講演でも、北川長官ははっきりと中小企業への外形標準課税の導入には反対だとおっしゃっていました。

何でもゴリ押しで進めている今の政府に待ったを掛けることが果たしてできるのでしょうか。

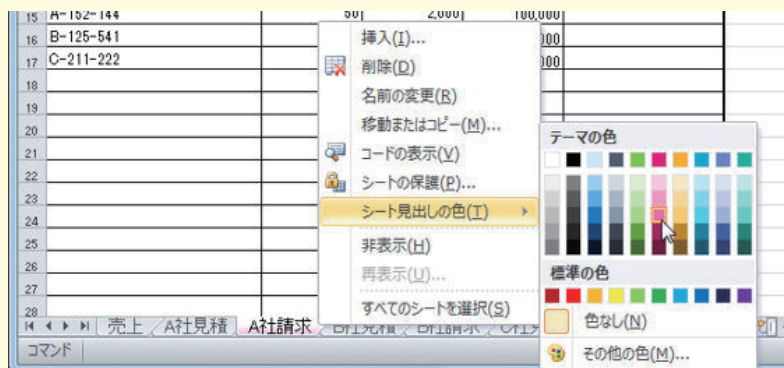
## ごぞんじでしたか？

## Excel ワンポイントテクニック

今回は知っているようで知らない、ちょっとしたテクニックをご紹介します。

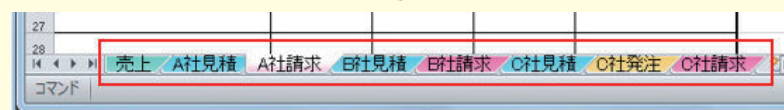
### (1) シートタブに色を付ける

いくつかのシートを作ったとき、シートタブに色を付けられるというをご存じですか？  
シートタブのところにマウスポインターを持って行き右クリックすると「シート見出しの色」という項目があるので、そこで色を選択することができます。「シート名は替えたことがあるが、色までは・・・」とおっしゃる方、是非、一度お試しを。



### (2) シート間の移動やコピーをドラッグ&ドロップで・・・

ある範囲のデータを別のシートに移動やコピーしたい場合、どうしますか？  
おそらく、範囲指定して右クリックで「切り取り」か「コピー」して、目的のシートを開いて「貼り付け」という操作をしているのではないですか？  
それを、ドラッグ&ドロップでやろうというのがこのテクニックです。



範囲指定して [Alt] キーを押したまま「ドラッグ」し、シートタブのところにマウスポインターを持って行くと、シートが切り替わりますので、そのまま移動したいところにマウスを持って行って「ドロップ」します。これで簡単移動できます。  
コピーする場合は、[Alt] キーと [Ctrl] キーを同時に押して、同様にすると別のシートにコピーができます。お試し下さい。

# 読者 訪問



第54回

お伺いした会社 株式会社佐藤技研  
お話を伺った方 取締役専務 佐藤 哲也 様  
事業内容 義肢の製造・卸・販売  
会社の所在地 〒611-0033 京都府宇治市大久保町西ノ端 1-18  
連絡先など TEL:0774-48-1151 FAX:0774-46-1635  
URL <http://www.satogiken.jp>  
e-mail [tetsu@satogiken.jp](mailto:tetsu@satogiken.jp)

今回は宇治市大久保の工業団地(フェニックスパーク)の中にある佐藤技研さんをお訪ねしました。



いろいろな義手の展示



本社社屋外観

佐藤技研さんは義肢(義手や義足)を製造なさっています。佐藤専務のおじ様が宮大工をなさっていて、木製の義手を作られたのがルーツとか。今でこそ金属製のメカニズムになっていますが戦前は木製だったそうで、人形浄瑠璃や仏像の手足をかたどった技術により作られていたそうです。

そんなことで、現在まで義肢制作一筋にやってこられました。いまは機能性を重視したものやロボットのメカニズムを持ったものまで多種多様のものがありますが、佐藤技研さんでは内部工学的なものはやらずに、見た目にこだわってリアリティを追求してこられました。表面素材も塩化ビニールからシリコンになり、ぱっと見ただけでは本物と見分けがつかないものまでできるようになりました。

義肢を扱っている会社は数百社あるそうですが、外側の素材をもっぱら作っているところは十数社だとか。その中でも特に佐藤技研さんではリアリティにこだわっておられます。手指や手首を切断された方は「付けるとじゃまになるが、でも、付けたい」という思いが強く、できるだけ残存指の動きを損なわず、かつリアルに装飾するとということが求められます。まさに義手製作における腕の見せどころだとおっしゃいます。

そして、「相手の身になって、気を配って製作している」とおっしゃる佐藤専務の言葉に、単になくなった部分を補填するものを作っているというのではなく、少しでも力になってあげたいという優しさを強く感じました。

リアルな義肢を求めて全国からネットで問い合わせがくるそうです。そして、製品の見積、売上、出荷、売上履歴などの管理に弊社の販売管理システム『@シリーズ』をお使いいただいています。扱い商品が特殊なものだけに、売上入力も同社特有の方式で入力できるようにしており、MS-DOSの時代から長いお付き合いをさせていただいております。

『今、ものづくりに問われていることはなんでしょう? 本当にいいものとは? 品質が良く見栄えがして役に立つものは……。それは心のこもったものづくり。思いのこもったものづくり。自分の一部と思えるものづくり。そして、ものに魂を込める作り手には感性が必要です。この感性のものづくりが人の感性も磨き、使い手に思いが伝わるのです。』

いただいた会社案内に書かれていたこの一文が、同社の理念を表していて心を打たれました。なくてはならない企業として、社会貢献されている同社の末永い発展を祈念いたしております。



木製義手の  
模型を持った  
佐藤専務



超リアル  
な義手

## シリーズ奮戦記

シスポートの販売管理システム(◎シリーズ)は、基本パッケージをベースに、いろいろな業種・業態に合わせてカスタマイズしてご提供する“イージーオーダー型”のソフトウェアです。あらゆる業界で活躍している◎シリーズの一部をご紹介します。

使っていただいている業種・業態 高級ブランド洋服卸業

ベースとなった◎シリーズ ごふく◎ win for Oracle

導入のポイント 扱われている商品はアパレルの商材ですが、高額な商品が多く単品管理を行われております。**おびる◎ sp**ではなく、**ごふく◎ win**をカスタマイズし、商品マスターに色・サイズ等の必要な情報が登録できるようにしました。また、商品につける札を印刷できるようにラベルプリンターとも連動しました。

カスタマイズと運用のポイント

- ・仕入先から商品を受託(浮借)したときに、システムで商品マスターを自動作成します。商品マスターに素材などの情報を入力し、商品ラベルを発行して商品を出荷します。商品を仕入たときも同様です。
- ・商品が売れた時に、自社の在庫品か受託(浮借)商品かの識別が難しいため、浮借商品の仕入処理が必要かどうかを容易に検索できるようにしました。



ラベルプリンター



商品ラベル

2014年7月発行

Presented by Sys:port corp.

第79号



シスポート情報提供機関誌

info